

宮川 宗一郎

県政レポート

Vol.7 2025年6月発行



いつもの暮らしを守るために —— 梅雨の備えを、今年も忘れずに

みなさま、こんにちは。福岡県議会議員の宮川宗一郎です。今年も梅雨の季節がやってきました。

この時期は特に大雨による災害が起きやすく、注意が必要です。福岡県では平成29年の九州北部豪雨以降、毎年のように大雨災害が発生しており、県民一人ひとりの備えが欠かせません。

日頃から、どの道を通ってどこに避難するか、ご家族で話し合っておくこと。また、災害時にどのように連絡を取り合うか確認しておくことも非常に大切です。いざという時に慌てず行動するためには、日常の中での準備が何より重要です。

福岡県の防災アプリ「ふくおか防災ナビ まもるくん」では、地域の気象情報や避難所の開設状況が通知され、緊急時に大変役立ちます。さらに、防災ホームページ(<https://www.bousai.pref.fukuoka.jp>)では、雨量や河川の水位、土砂災害の危険箇所などを地図で分かりやすく確認できます。スマートフォンからもアクセスしやすく、外出先でも最新情報を手軽に得られます。

本格的な雨の季節の前に、どうか皆さま、今のうちから備えを進めていただき、安全・安心な暮らしを守っていきましょう。



福岡県防災
ホームページ



ふくおか防災ナビ
まもるくん



湿気と暑さに潜む危険、熱中症を防ごう

暑さによる体温上昇や脱水で発症する熱中症は、命に関わる危険もあります。日頃からこまめな水分補給や暑さを避ける行動を心がけましょう。特に高齢者や子どもは要注意。体調が悪い時や災害時・避難所でもリスクが高まるため、無理せず涼しい環境で過ごすことが大切です。熱中症警戒アラートにも注目を。

地域とともに歩んだ2年、そしてこれから

令和5年の初当選から2年余り、県議会議員としての任期も折り返しを迎えました。まずは、これまで支えてくださった多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

日々現場を歩き、地域の皆さまの声をお聞きしながら、一つひとつの課題に向き合ってきました。防災・減災対策、地域の教育や福祉の現場支援、そして住み慣れたまちで誰もが安心して暮らせる環境づくり。まだ道半ばではありますが、少しずつ形になり始めている取り組みもあります。

残された任期の中で、これまで以上にスピード感と実行力を持って行動してまいります。地域の課題に「気づき」「寄り添い」「かたちにする」—その原点を忘れず、引き続き、皆さまの声に真っすぐ向き合い、県政に届けてまいります。

今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



「みんなの川を、みんなで守る」

— 地域とともに歩み出す、河川保全の新たなかたち —

福岡県内には500以上の河川があり、すべてを行政だけで管理するのは困難です。

そこで私は、「誰かがやる」のではなく、「みんなで守る」という意識のもと、地元の皆さまと協力して河川愛護団体を立ち上げ、樋井川で草刈りや伐木を行いました。

現場での活動を通じて地域の声を直接受け止め、それを県議会での質疑につなげました。

今後も、こうした取り組みを河川環境の保全に生かしてまいります。

今回は、活動の概要と議会での提言、地域主体の「38リバークリーンクラブ」の取り組みをご紹介します。以下に主な要点をまとめました。

質問① 草刈りの目的について 〈答弁：河川管理課〉

私からはまず、県管理河川において草刈りがなぜ必要なのか、その目的を問いました。

- 草刈りは、河川環境の保全だけでなく、洪水時の流下能力の確保や利用者の安全の確保といった役割を担っており、加えて、ごみの不法投棄や犯罪の抑止にも効果がある、非常に重要な作業であるとの答弁がありました。

質問② 草刈りの実施状況と愛護団体の貢献 〈答弁：河川管理課〉

次に、令和5年度の草刈りの実施状況について質問しました。

- 県管理河川における草刈りの総延長は約1,600kmで、そのうち約1,100km(約7割)を愛護団体が実施しているとのことです。まさに、地域の皆さまの力が河川管理の要となっていることが明らかになりました。

質問③ 愛護団体の数と参加者の高齢化(資料要求) 〈答弁：河川管理課〉

愛護団体の今後を考える上で、登録数の推移や年齢構成の変化も重要です。事前に資料提出を依頼しており、委員長の許可のもと、資料の概要説明が行われました。

- 令和5年度末で愛護団体数は526団体。
- 平成26年度～28年度は約6%増だったのに対し、令和2年度～5年度では1%の増加にとどまっている。
- 年齢構成を見ると、60歳以上が67%を占めており、顕著な高齢化が進行していることが分かりました。

質問④ 団体数を増やすための取組について 〈答弁：河川管理課〉

このような現状を踏まえ、今後どのように団体数を増やし、若い世代の参加を促すのか質問しました。

- 現在もパンフレット配布やHP掲載などで広報は行っているが、今後は、活動実績のある団体への表彰制度の拡充や、SNSやホームページを活用した活動状況の発信強化など、より効果的な周知に取り組むとの答弁がありました。

質問⑤ リモコン式草刈機の導入について 〈答弁：河川管理課〉

現場作業は特に高齢者に過酷で、夏場の斜面作業は危険です。そこで、リモコン式草刈機の導入を提案しました。

- リモコン式草刈機は、操縦者が安全な場所から斜面作業ができるため、作業効率と安全性の両面で高く評価されています。ただし、狭い場所には不向きなため、他自治体の活用状況を調査した上で、導入を検討していくとのことでした。

質問⑥ 登録要件の見直しと今後の支援について 〈答弁：河川管理課〉

最後に、現在は25名以上とされている愛護団体の登録要件の緩和も視野に入れて、今後の支援策について県土整備部長に所見を伺いました。

- 河川は県民にとっての貴重な財産であり、安らぎと恵みをもたらす存在。
- その保全には県民一人ひとりの意識と行動が欠かせない。
- 愛護団体の皆様の協力はまさに河川環境保全の要であり、今後も皆様が安全かつ安心して活動できるよう支援を充実させていくとの答弁をいただきました。



地域の声を政策に、現場と行政の架け橋として

樋井川での草刈り活動、愛護団体の設立と運営、そして議会での提言。これらはすべて、「地域のために行動し、課題を政策へとつなげる」 — 私の基本姿勢に基づくものです。住民の皆様の声を聞き、共に汗を流しながら、県と連携して持続可能な河川環境の保全に取り組んでまいります。

「38リバークリーンクラブ」の活動紹介

身近な自然を大切に—そんな思いから、地域の有志が集まり誕生した河川愛護団体「38リバークリーンクラブ」。福岡県が推進する「クリーンリバー推進対策事業」をきっかけに設立されたこのクラブは、地域の方々や企業の協力のもと、樋井川を中心に清掃や草刈り活動を行っています。

これまでに実施した清掃活動は、長尾校区をはじめ、田島地区などで計4回にのぼります。回を重ねるごとに、地域住民の参加も増え、草刈りやごみ拾いを通じて川の美化に貢献しています。作業中には、川辺に息づく昆虫や植物に目を向ける機会も多く、普段は気づきにくい自然の営みに触れる貴重な体験にもなっています。

また、活動の合間には取水期を前にした防災意識の共有や、水害への備えについて意見を交わす場も設けられました。川と暮らしの関わりを改めて見つめ直すことで、自然への親しみだけでなく、防災に対する意識も自然と高まっています。

「38リバークリーンクラブ」では、今後も地域の皆さんと連携しながら、川を守る活動を続けていく予定です。活動に参加することで、川の景観が整うだけでなく、地域のつながりも深まっていきます。福岡の豊かな自然を未来につなぐ一歩として、皆さんも一緒に川をきれいにしてみませんか？



福岡県在住の方
誰でも参加OK!



県議×自衛隊のトリビア(第3回)

前回は、陸上自衛隊幹部候補生学校についてご紹介しましたが、卒業後は「航空科」をはじめとする15の職種にそれぞれ配属されます。今回は、その中でも意外と知られていない「航空科」についてご紹介します。



「航空科」とは？

「各種ヘリコプター等をもって、ヘリ火力戦闘・航空偵察・部隊の空中機動・物資の輸送・指揮連絡等を実施して、広く地上部隊を支援する」という任務を担う職種です。

私は、その中でもUH-60JAという多用途ヘリコプターの操縦士として勤務しておりました。UH-60JAは、戦闘・救難・輸送など多岐にわたる任務に対応可能な機体です。



「操縦士」だけじゃない!航空科の5特技

航空科には、実は以下の5つの特技が存在します。

航空操縦 ヘリコプターを操縦し、あらゆる任務に対応する中核の特技。

航空管制 航空機の離着陸や飛行ルートを安全に管理・指示する役割。

航空機整備 ヘリコプターが常に最高の状態で飛行できるよう、点検・修理を行う。

気象予報 天候の変化を予測し、飛行の可否を判断する重要な情報を提供。

航空通信 航空機と地上部隊・他の航空機との通信を維持し、作戦を円滑に進める。

自衛隊の航空科は、航空機の運航や航空作戦に欠かせない多様な特技を持つ隊員が使命感をもって任務にあたり、ヘリコプターの離着陸が可能な場所を拠点として現地展開することで、山中や災害現場など空港がない場所でも臨時的な“飛行場”として機能させる強みを活かし、地上部隊の支援から災害派遣まで「空」から力を発揮しています。

宮川宗一郎県政報告会 各地区で開催中!

福岡県議会議員・宮川宗一郎は、日頃より皆さまとの対話を大切にし、地域の声を県政に届けるため、毎月、選挙区内各地で県政報告会を開催しています。これまでに、長尾校区・片江公民館・別府公民館などで開催し、地域の皆さまから多くのご意見・ご質問をいただきました。報告会では、県・市・国がどのように連携しているのか、また地域に関する具体的な課題をどのように行政と連携し解決に導いているかを分かりやすくお話しています。

最近では、「ワンヘルス」や「災害時のドローン・ヘリコプターの活用」、「メタバースによる自殺予防」といった先進的な県の取り組みに関する質問もあり、参加者の皆さまと活発な意見交換を行うことができました。

皆さまの声が県政を動かす力になります。今後も月に1回程度のペースで開催を予定しておりますので、ぜひお気軽にご参加ください!



県政活動・地域イベント



福岡日米協会「日米親善歓送会」



120周年日本海海戦記念大会



第4師団創立63周年・福岡駐屯地開設75周年



油山山林火災訓練



城南区友丘 一本松川の修復工事



早春のつどい～県政報告会～



陸上自衛隊での救助経験の強みを生かし、 安心安全な生活に力を注ぎます。

名前 宮川 宗一郎(35歳)
 家族構成 妻 長女 長男
 趣味 バレーボール、筋力トレーニング、読書、カラオケ
 座右の銘 感謝

- 平成元年12月29日生 福岡市出身 ●笹丘小学校卒業
- 泰星中学高等学校(現・上智福岡中学高等学校)卒業
- 防衛大学校理工学部(建築環境工学科)卒業
- 陸上自衛隊(ヘリコプター操縦士 平成25～令和4年)
 平成28年4～5月 熊本地震における災害派遣
 平成29年7～8月 北部九州豪雨における災害派遣
- 福岡県議会議員(1期目) ●建築都市委員会 副委員長
- 防衛議員連盟 事務局長 ●スポーツ立県調査特別委員会 委員
- 福岡県隊友会 相談役(陸上自衛隊) ●春日基地協賛会 顧問(航空自衛隊)
- 水交会 相談役(海上自衛隊)



お気をつけください!詐欺にご注意を!

城南区でも二セ電話詐欺が頻発しています。

被害を防ぐため、県では二セ電話詐欺対策動画を制作し公開しております!

